

イエスの復活、私たちの喜び

カレンガ神父

教皇フランシスコが、サンピエトロ広場に集まった信者とすべての人に向けた最初のメッセージでは「教会の旅」を強調しました。

2012年前に始まった教会の旅、毎回新たに始まる教会の旅は愛の旅、愛に結ばれた兄弟姉妹の旅です。まさに信仰は目的地のわからない出発です。

それは信仰の父であるアブラハムがした旅です。

「信仰によって、アブラハムは、自分が財産として受け継ぐことになる土地に出て行くようにと召し出されると、これに服従し、行き先も知らずに出発したのです」（ヘブライ人への手紙 11・8）。

アブラハムの旅は、私たちの旅とは根本的に違うものであることが分かります。

私たちの旅には必ず目的地がありますが、アブラハムの旅には目的地がなく、神様にすべてを委ねる旅だったのです。

信仰の旅とはそういうものです。

早朝まだ暗いうちに、わたしたちのようにちゃんと目的(イエスの遺体の処置をすること)をもって、旅をしたマグダラのマリアは空の墓を目撃することになりました。

それは、「信仰の原点に戻れ」というメッセージではないかと思います。

何も無いところからすべてをお造りになった神様に、すでに存在するものも含めて全てを委ねることではないでしょうか。

天地の創造主が信仰宣言の冒頭にでてくるのは単なる言葉の調和のためではなく、その信仰の原点を強調するためです。

イエス・キリストの復活により、感謝の祭儀（ミサ）を通して、いつでも、どこでも、神の創造の業を味わうことができます。

言うまでもありませんが、感謝の祭儀は主の死と復活を記念して行われるお祭りです。

その日において、私たち一人一人が新しく造られ、改めて「よし」とされています。

それが私たちの喜びの理由です。

復活の答唱にも次のように歌われています。

「今日こそ神が造られた日、喜び歌え、この日とともに」ところが、創造または、新しい創造の喜びを味わうためには、まず「無」や、「空」を体験する必要があると思います。

神様の沈黙もそうですが「無」（仲間、支える人、友などがいない）と「空」（財布、頭などが空）は私たちを不安に落としいれます。

「無」があってこそ「有」、「沈黙」があってこそ「言葉」ということを忘れてはいけません。

生きていくうえで、言葉だけでは本当の喜びを味わえません。

沈黙も大事なのです。

言い換えると、生きるために話すことと聞くことのバランスが求められているということです。バランスを取るにより、お互いの悩みごとや不安などを分かち合うことができます。そして分かち合うことで復活したイエスに出会い、この出会いによって喜びを体験することが可能となります。

復活したイエスは秘蹟（御聖体）という形で私たちに会いに来られて喜びを与えてくださいますが、イエスは他のさまざまな形でも私たちを訪ねて来られています。

貧しい人、金持ち、子供、親、奥様、ご主人の形をとって私たち一人ひとりに会いに来ているのです。自分を「無」にしてこのイエスに出会った時には、きっと喜びの歌を口にしていることと思います。その喜びが皆さんの日々の生活において確かなものとなりますように、心から願っています。

“Happy Easter!”、「ご復活おめでとうございます。」